

木や、ハイビスカスの巨木、火災樹などが、また広場にはユーカリなどが植えられている。

マナグア湖のほとりには大聖堂と宮殿があるが、大聖堂は倒壊こそ免れたものの、廃墟となったままである。宮殿は一部が政府系の役所になっている。

一方、新しい街は旧市街を包むように無秩序と思われるように大きく広が



旧宮殿。現在は、一部が政府の施設になっている

## 先進的な雇用状況

マナグアの失業率は、公式には20〜25%とされるが、実際の失業率は60〜70%であろう。その失業者たちを吸収し



マナグア市役所周辺。2階建てになった、一見住宅のような建物に、各部署が分散して入っている

り、新興住宅地と行政機関地域、そしてスラムが混じり合った状態である。スラム地区はどんどん大きくなり、都市の治安も悪化しているという。

ているのが、道路でのモノ売りや、埋め立て処分場での有価物拾いなどの仕事である。子供もふくめて一家総出で働き、その日の糧を得ている。内戦の後遺症に加え、国際的な綿花価格の下落により綿花生産業の撤退を余儀なくされて、綿摘みで生活していた労働者たちは生活の手段を奪われてしまった。あるいは、干ばつがつづいてサトウキ



新大聖堂。大地震で旧大聖堂が放棄されたあと、最近、海外建築家の設計で建てられた。デザインは、地元でも賛否両論

びなど農作物が壊滅的被害に遭った農民たち。これらの人々が都会に流入してきて、スラムをつくっているのだ。一方で、雇用機会の男女平等は進んでおり、公共施設などで多くの女性職員を見る。それどころか、役所の局長や課長、大学の学部長などといった地位にも数多く進出している。中米の女性はずっと積極的にあることに加え、

市内のホテルのパーティオ。強い陽射しを防ぐ植栽に囲まれ、落ち着いた中庭



かつてサンティニスタ政権が共産主義的な政策をとっていた影響もあるのかも知れない。また、能力のある人は女性にかぎらず、若くても責任ある地位にどんどん就けるようだ。24歳の女性が専門学校の教頭に抜擢されたりした例もあるという。

# レオン

レオンは、首都マナグアから北へ70kmほどにある、歴史の古い街である。

この街が最初に建設されたのは1524年で、その場所は現在の位置から24kmほど東であった。以前の街は、1609年のモモンボ火山の噴火で壊滅してしまっただけで、現在の地に再建された。

ちなみに、マナグアが首都となる前の一時期、ニカラグアの首都はレオンであった。この街にあるニカラグア自治大学は1858年の創立で、ニカラ

グアでいちばんの古さを誇る。マナグアを挟んで、レオンの反対側にグラナダがある。グラナダが、ヨーロッパとの交易の中心地で商業の街として繁栄したのに対して、レオンは芸術と文化の街として栄えた。

レオンの人口は16〜17万人で、街の中心部は東西約4km南北約3kmの方形のなかに、きちんと区画された街区が整然と並び、17ほどの教会がある。1街区は約120m角のほぼ正方形で、間口は3mくらいのもジュールで構成

されている。各戸は数単位のモジュールの間口を有している。この街の標準的な住宅は、玄関を入るとすぐ広間となり、奥にパティオと個室がある。各戸の境や室内の壁は、店舗もホテルも同じモジュール体系のなかでつくられている。もちろん改築する場合も、このモジュールを崩すことはない。

街区は、舗道つきの2車線道路で隔てられる。道路も舗道も、ブロック舗装である。古い舗装は玉石である。このような構成の都市でなければ、400年も前の舗装形態が保存されることはないだろう。

天候が不安定であった。あるとき、夕食を外でとったのだが、夜9時ごろ、ものすごいスコールが来た。道路は、一面とうとうたる川となっている。それで気がついたのだが、通りに面した家々の玄関は道路よりいくぶん高くなっている。まず舗道が上がリ、玄関はさらにもう一段上がるので、道路より20〜30センチは高い。下水が整備されていない地域では、家庭排水口が道路に突き出していたりする。

## 興味深い聖堂めぐり

市街の中心は、もちろん大聖堂である。この教会は、1746年から約100年の歳月を費やして建設された中米最大規模のものであり、現在でも市の中心的存在として機能している。礼拝時には青い法衣の神父さん、右には白い衣装の聖歌隊、進行役や補助役などがいて、厳かにミサが行われる。私はキリスト教徒でないのに、彼らの宗教上の役割はさっぱり見当がつかないが、その厳かさは十分伝わってくる。さすが大聖堂、外壁も内装も手入れがいき届いている。この大聖堂の正面に立つと、目の前は広場である。向い(西)は大きなアンテナを立てた郵政省、左(南)は図書館、右(北)が市役所である。